

# 民主島根

2023年  
**9.24**  
第1433号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 中国5県の共産党が一斉宣伝 政治の中身を変えよう

### 松江 むらほ 衆院1区、県議団らが商店街前で訴え



宣伝する(左から)岩田、舟木、むらほ、尾村、大国各氏 (松江市)



総選挙躍進へ党の風を吹かす向田聡市議 (安来市)

中国5県の日本共産党は15、16の両日、小選挙区予定候補や地方議員を先頭に各地でいっせいの宣伝に取り組み、悪政を進める岸田自公政治の転換を呼びかけました。松江市では15日、むらほえりこ衆院島根1区予定候補、尾村利成、大國陽介の両県議、舟木健治市議、岩田剛東部地区委員長が商店街前で宣伝しました。

むらほ氏は、第2次岸田再改造内閣について、マイナカードでも、汚染水でも、43兆円の大量拡充も、多くの批判があるのに、聞く耳を持たず説明もせず、強権政治をすすめる岸田首相の政治姿勢を批判。「内閣の顔ぶれが変わっても問題の解決にはならず、政治の中

身を変えよう」と呼びかけました。尾村県議は、中国電力が島根原発2号機(松江市)を来年8月に再稼働すると発表(11日)したことにふれ、「核燃料サイクルは破たんしている。2号機再稼働など論外だ」と訴えました。

### 島根原発で社長批判

県議会防災地域建設委 尾村県議「動かすな」

中国電力が島根原発1号機の廃炉作業の完了時期を延期する「廃止措置計画変更願い」を県に提出したことを受け、県議会が7日に開かれまし

た。参考人招致された中電の中間代表取締役社長、同島根原子力本部長、同島根原子力本部長らが廃止措置計画の概要を説明しました。

質疑では、同委員で日本共産党の尾村利成県議が、今回の変更は「使用中」として、再稼働の準備ができていないと指摘。中電が説明で、「六ヶ所再処理工場は2024年度上期には竣工する」と強弁したことについて「再処理工場は、完成時期が26回も延期され、世界各地の再処理工場では爆発事故などが相次ぎ、工程自体、確立されていない。使用済み燃料を再処理する技術は未確立」と強調しました。

工は中電の願望、希望的観測で不確実」と述べ、「今回の変更願いは絵空事で、廃炉計画に実効性はない」と批判しました。中電の中間社長が「島根原発2号機の早期稼働をめざす」と述べたことに対し、尾村県議は「自

分が生み出す核廃棄物の後始末ができない原発は完成した技術ではない。原発を動かす限り、核のごみは増え続ける。これ以上、危険な核のごみを増やし続け、将来の世代に押し付けることは許されない」と力説しました。

### 島根原発の再稼働と一体

#### 山口・中間貯蔵施設建設計画

中国電力は、8月2日、山口県上関町に対して、使用済み核燃料を一時保管する中間貯蔵施設の設置に係る検討を進めることを申し入れました。これを受け、上関町の西哲夫町長は8月18日に開かれた臨時町議会で建設に向けた地質などの調査を受け入れる考えを表明しました。調査は関西電力と共同で実施され、実際に建設されれば全国で2カ所目になります。原発を稼働すれば、使用済み核燃料の貯蔵プー

ルはあふれ出し、再処理をすれば、使う当てのないプルトニウムがたまり続け、処理方法のない高レベル放射性廃棄物は増え続けるといいます。核燃料サイクルは夢のサイクルではなく、負のスパイラルであり、原発推進路線はあらゆる面で行き詰まり、八方塞がりの状況です。こうした中、日本共産党国会議員団中国ブロック事務所が10月8日に「原発問題学習・交流会」を企画しました。ぜひご視聴ください。(左記参照)

上関・中間貯蔵施設建設やめよ 島根原発再稼働ノ

## 原発問題学習・交流会

10月8日(日) 14:00~15:30

講師

衆院議員 笠井 亮



各地からの報告

- 島根 県議会議員 尾村 利成
- 山口 平生町議 赤松 義生

YouTube から視聴できます。

<https://youtube.com/live/Gq2miPCGsc>

主催: 日本共産党国会議員団中国ブロック事務所

**鼓動** 最近、気になる言葉に「タイムパ」がある。「タイムパフォーマンス」の略語だ。似た語に「コスパ」もあるが、ともに、自分が費やした「時間」や「価格」が、効率的な利のあるものになっているか、その満足度を表す。物価高の今、「コスパ」に意識が向くのは必然であり、「賢い消費者」であろうとすれば、これを重視するのはうなずける。しかし、「タイムパ」に関しては複雑な気分になってしまふ▼「時は金なり」の格言を引くまでもなく、時間の価値は計り知れない。「取り戻せない」という性質も、その希少さを高める。だからこそ、誰にも等しく与えられた一日24時間で、何を為し、何を手に入れるかというタイム的思考も生まれるのだらう▼加えて現代のIT技術は、我々を豊富すぎる情報の海に放り込み、瞬時に取捨すること迫る。こうして今や、「タイムパ」は、世代を問わないテーマとなったと言えるのではないか。「タイムパ」重視の代表的世代がZ世代(1995~2010年生まれ)だとは限らなくなったのだ▼とはいえ、映像コンテンツの倍速視聴や、十秒毎の飛ばし視聴という、特にZ世代が得意とする視聴スタイルが一般的になりつつある事態には驚きを禁じえない。そこでは、セリフが介在しない演出は無駄なのか。必要は、短時間で得られる「分かりやすさ」だけなのか▼ふと思う。Z世代も「冬ソナ」の映像美が象徴する、言葉を超えた表現に、親共々心酔しながら育った世代ではなかったか。もはやあの時間は過ぎ去りし日々のなか。親世代として感傷に浸る自分がいる。(江)